



僕  
に  
委  
ね  
て

その  
身  
を

総  
て

GRANBLUE FANTASY  
UNOFFICIAL FANBOOK  
GRAN JAMIL

**R18**  
ADULT ONLY



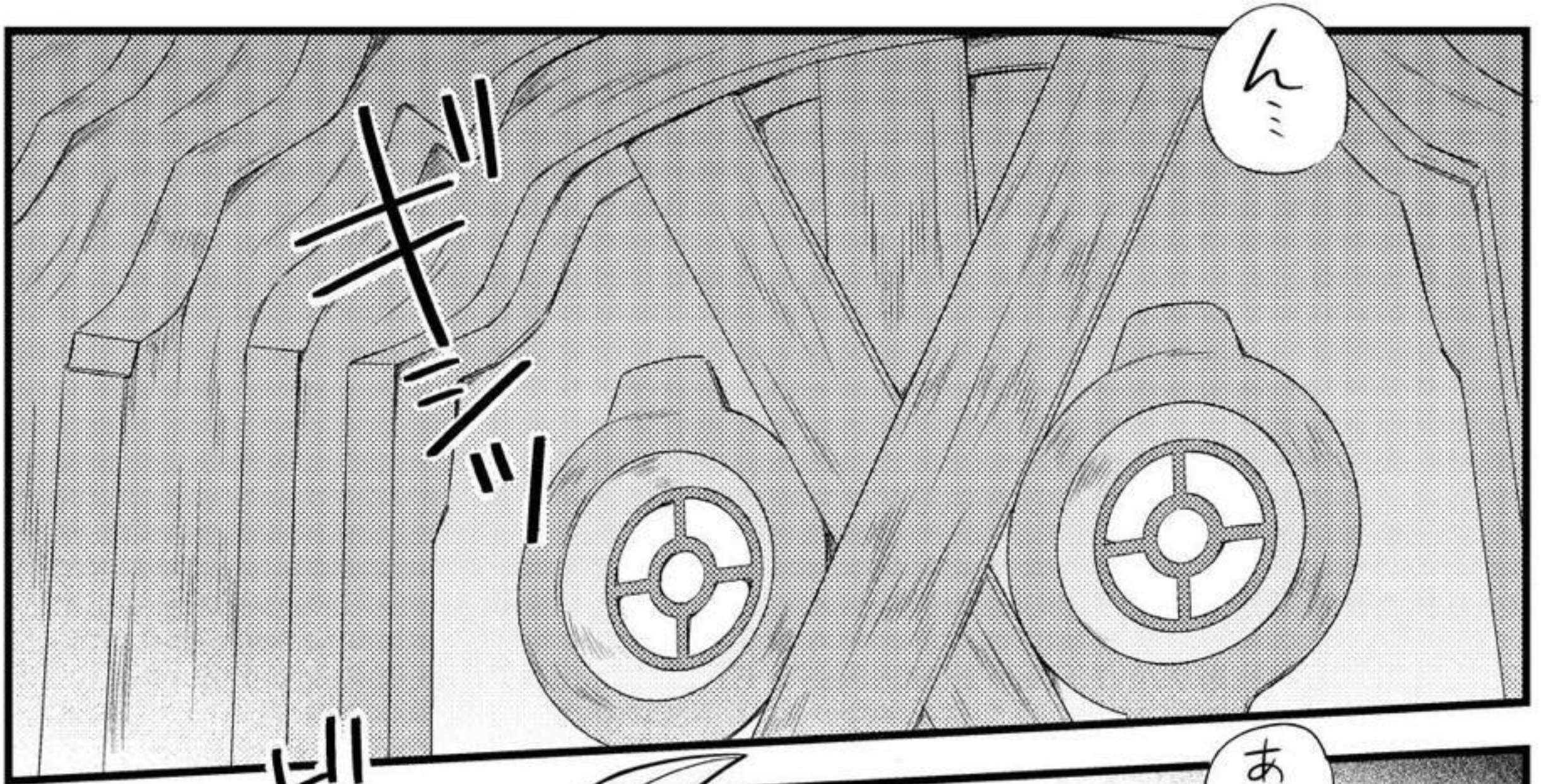
この同人誌は成人指定です。  
既刊『主君よ！俺にお任せください!!』の続編となります。



その身を総て僕に委ねて











もう  
出そう...















未知の弱体効果を  
受けた僕は  
仲間を襲いそうに  
なった

とにかく誰かを  
襲いたい：  
そういう感情で  
いっばいだった




そんな僕を  
ジャミルは止めようと  
してくれたんだけど…



その方法は  
僕の知らない  
ものだった

すごく熱くて  
気持ちいい行為

それをしている  
ジャミルも  
僕の知らない  
ジャミルだった



そんな行為に  
僕はすっかり  
はまってしまい  
現在に至る

今じゃほとんど  
毎日してるな…

0。

















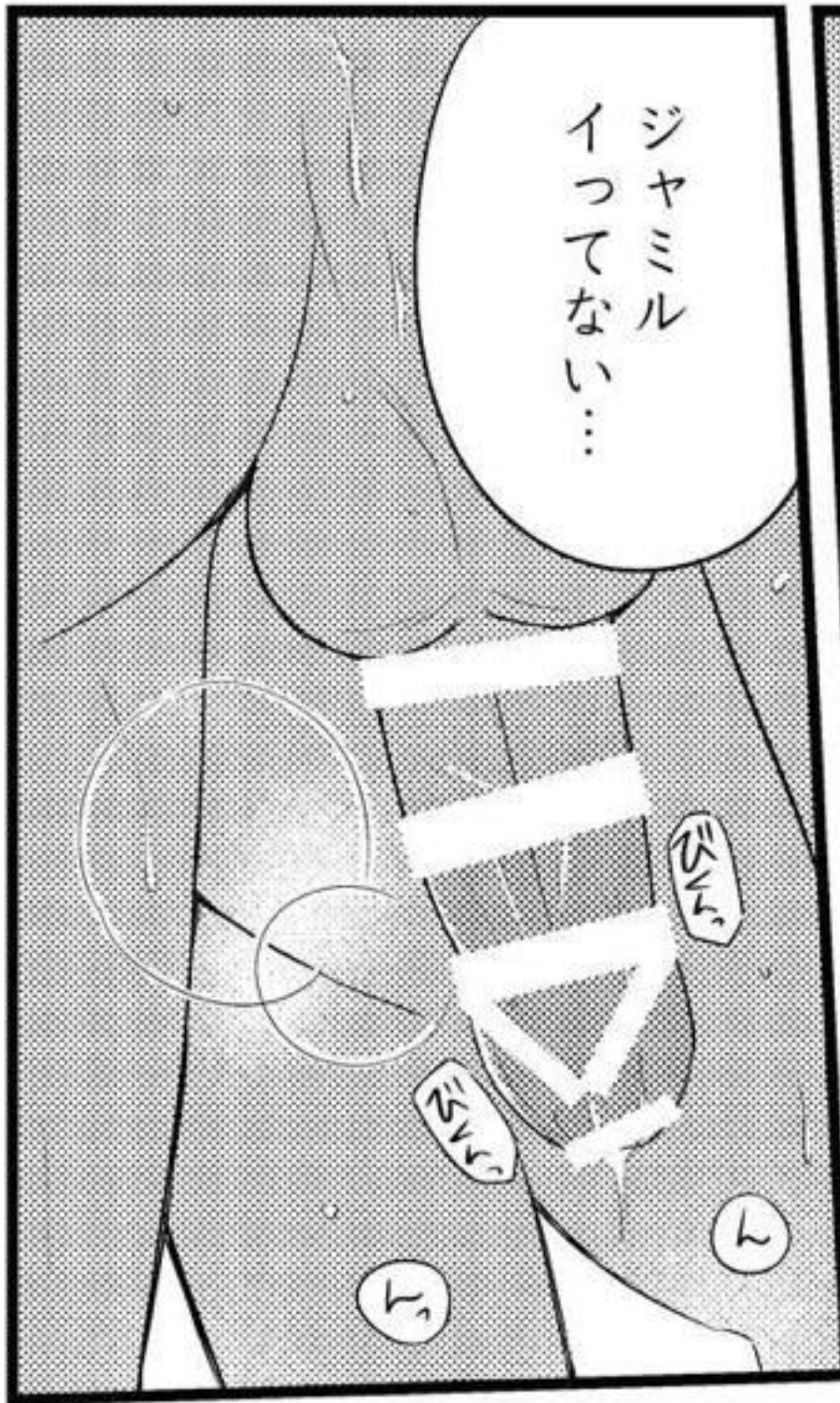
















主君…

今宵の伽は  
ご満足いただけ  
ましたか…？

うん…  
すごく  
よかった…

主君のお役に  
立てて  
嬉しいです…

ふふふ



可愛い  
な…

なで  
なで



決して  
華奢じゃない

手もごついし  
あれも立派だ

僕が抱いている  
ジャミルは  
間違いなく  
男だ



男同士ですること  
後ろめたさを  
感じたことも  
あったけど

最近は  
開き直ってるな

ジャミルとするの  
気持ちいいし

主君！

！

ドキッ

すい

どっ  
どうしたの？

そろそろ  
御部屋に戻った方が  
よいと思います

明日の依頼に  
響くので…

あ…

そうだね…

依頼のこと  
すっかり  
忘れてた…

団長なのよ

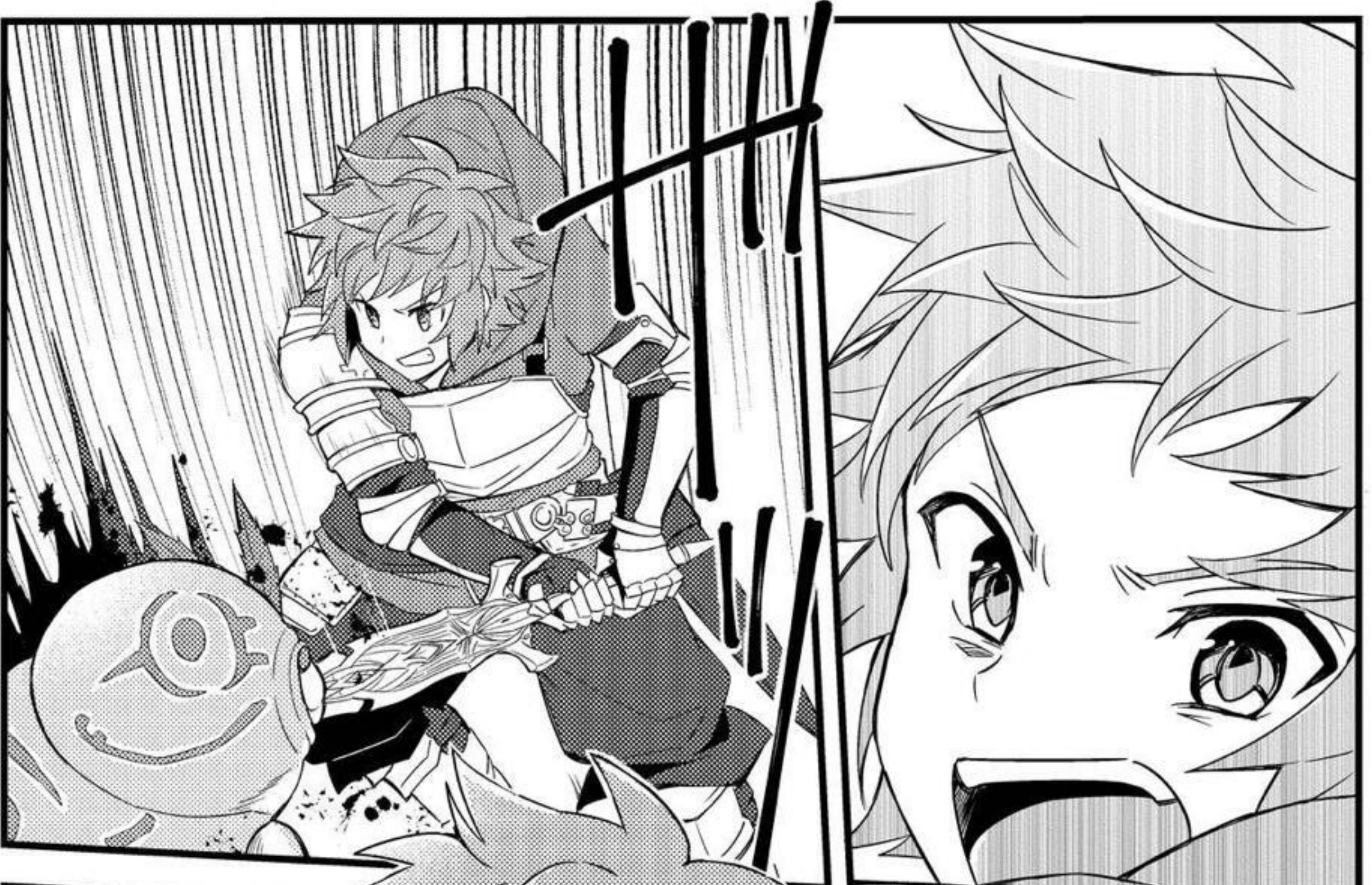
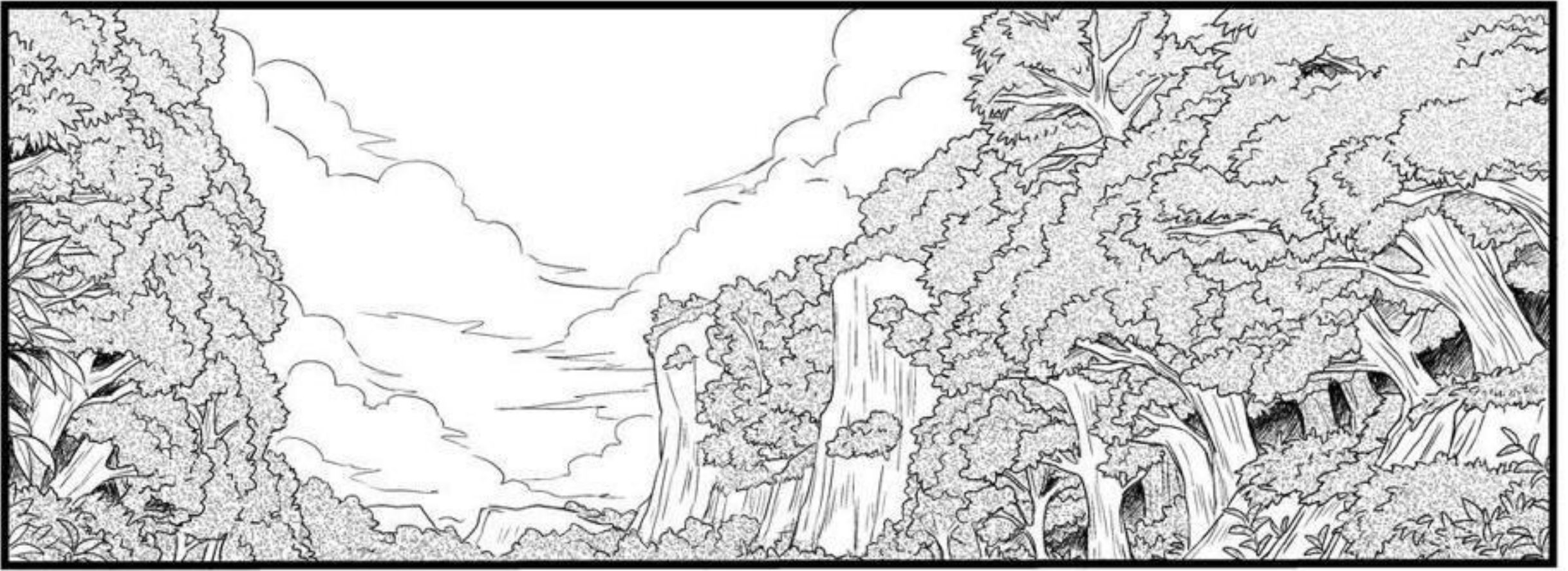












はああっ!!





ありがとう!

無事で  
何よりです





よし...



こいつが  
親玉か...?

そのよう  
です



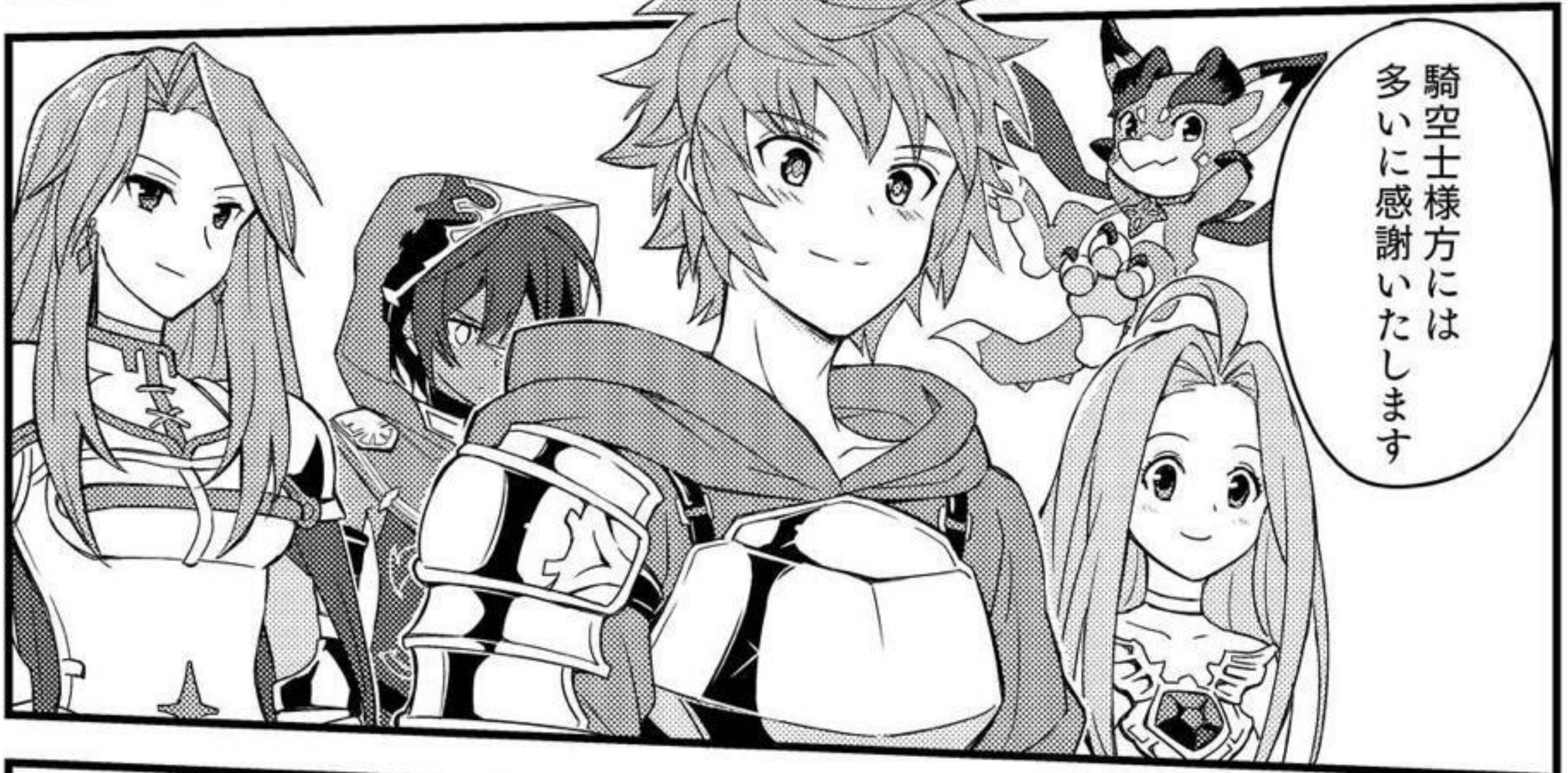
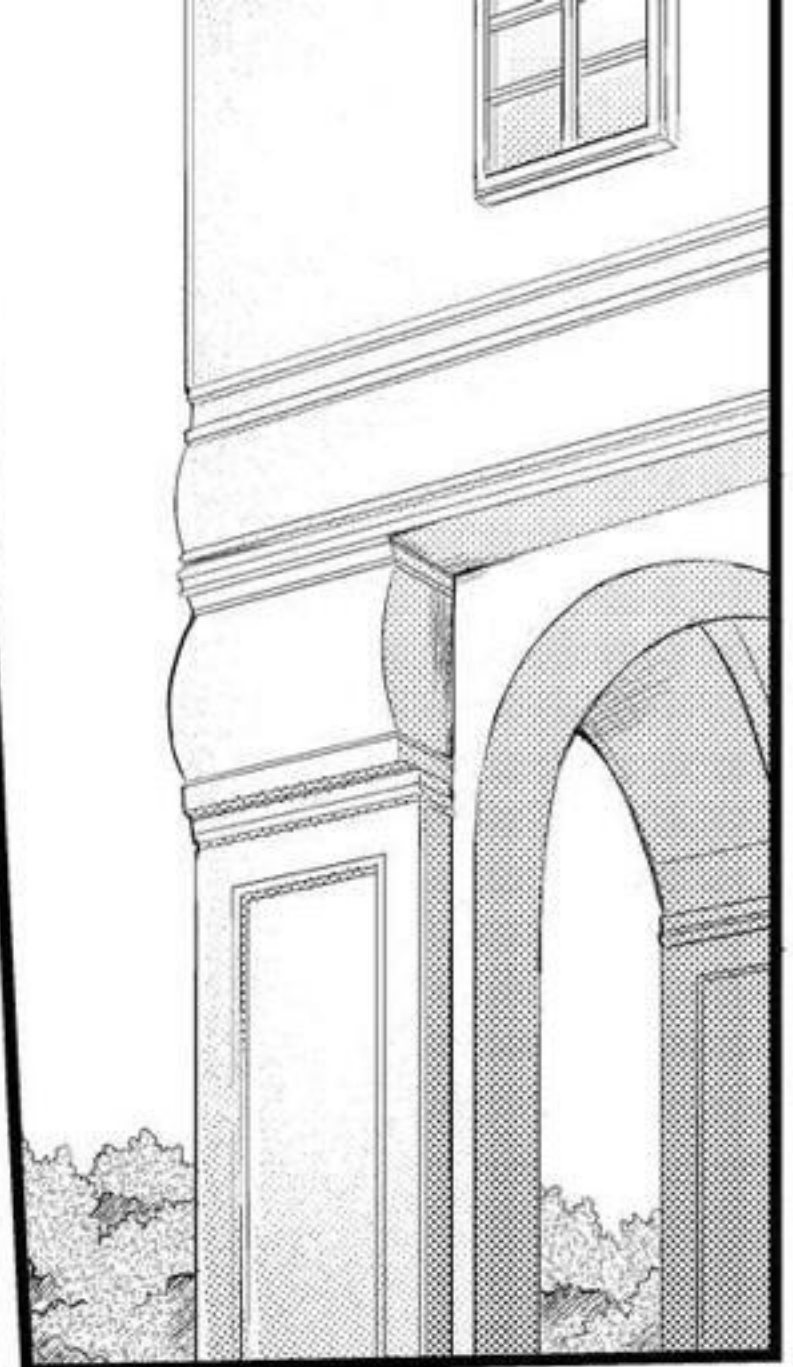
承知！

援護しろ  
ジャミル！





お陰様で  
無事荷物を  
運び込めました



騎空士様方には  
多いに感謝いたします



僕だけの力では  
ありません

まだまだ未熟な  
部分も多いですが…

手練れの団員達が  
力を貸してくれ  
ますから

しかし…団長さんは  
まだ相当  
お若いと見えるが

相当な実力者と  
見受けられる…







驕らない  
姿勢…  
君は団を率いるに  
ふさわしい  
人物ですな

ありがとうございます  
ございます



さっきのグラン  
カッコよかった  
です！

すっかり一人前の  
団長って  
感じだったな！

オイラも鼻が  
高いぜ！

……



えっ？

は…はは…  
そう言われると  
照れるな…

いつもの  
グランに  
戻ってらあ

ああいうのは  
ガラじゃないよ

しかし実際  
よくやっていると  
思うぞ

ほら！  
カタリナも  
そう言って  
ます！



カタリナ  
さん

ビートルリアを  
連れて  
先に戻って  
くれませんか？

別に  
構わないが…



















持つてきて  
ないよ...

いいです  
そのまま...

ほお  
ほお



んんん  
んんん



主君

どうぞ...

んんん  
んんん  
んんん





うあ…

生  
きもさささ…

あ…

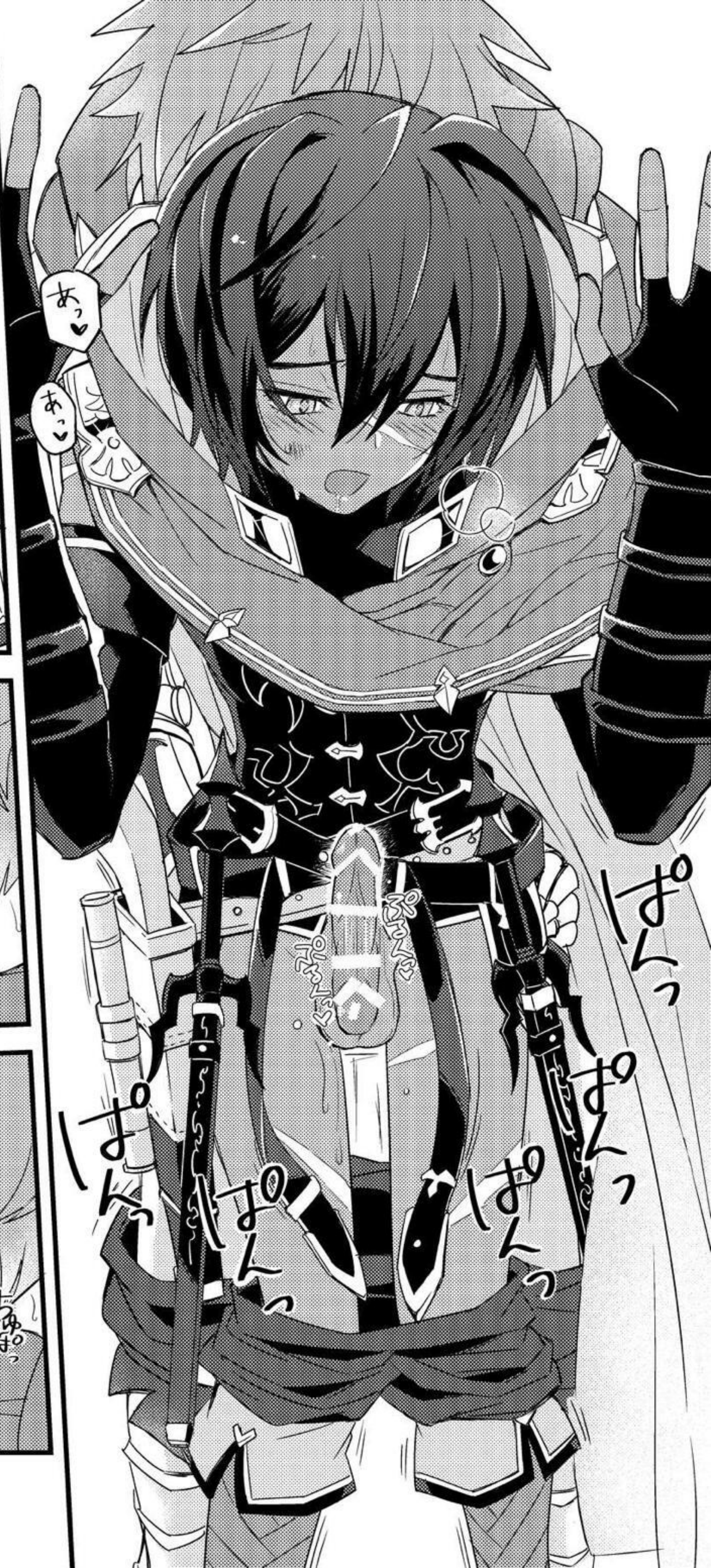
あ…

ああ…

ジャミルの汗に  
血と泥の  
臭いが混じって…

すごく  
興奮する…















主君こそ…  
名だたる騎空団の  
団長であるのに…

俺なんかと  
このような行為を  
していると  
知られるのは

不都合  
なので…？

そ…

そうかな…

皆様が  
お待ちしています  
戻らなくて…

あっ  
うん…























ごめん  
すぐ行くよ



あっ  
イオ

もう！  
何回  
呼ばせるの？

ラカムが艇の  
進路のことで  
相談したいって



なっ



貴方  
今

恋してる  
でしょ？



ねえ  
グラン





まー  
そうよね

グランも  
男の子なんだし

ここ  
素敵な人  
たくさんいるし



なっ…

何  
言っ…

ごまかしたって  
無駄よ!

レディには  
お見通し  
なんだから!



詮索する  
つもりはないけど

協力してって  
いうなら  
してあげる!

あ…  
ありがとう



…



少なくとも  
女の人を  
想定してるだろう

イオは  
あんなふう  
に  
言ってるけど…

ジャミルの  
ことだとは  
思わないだろうな…



はあ…





















主君  
お待ちして  
おりました

どうぞ  
お入りください



コン  
コン



待つて



今宵も  
精一杯  
務めさせて  
いただき……



少し  
話したいことが  
あるんだ



ジャミル

正直に  
答えてほしい

僕と  
こういうこと  
するの…

本当は  
嫌じゃない？

な…

何故  
そのような  
ことを…

だって  
男同士だ

…君も  
不都合だ  
って  
言ってた

男が好き  
なわけじゃ  
ないのに

僕が命令するから  
応えてくれて  
いるんだろ？









君が嫌だと  
思っているなら

もう  
こんなことは  
したくない

だって  
僕



君の  
ことが

好きだから…

……



ああ…

言っちゃった…





嫌じゃ…

ないです



え…



でっ  
でも…

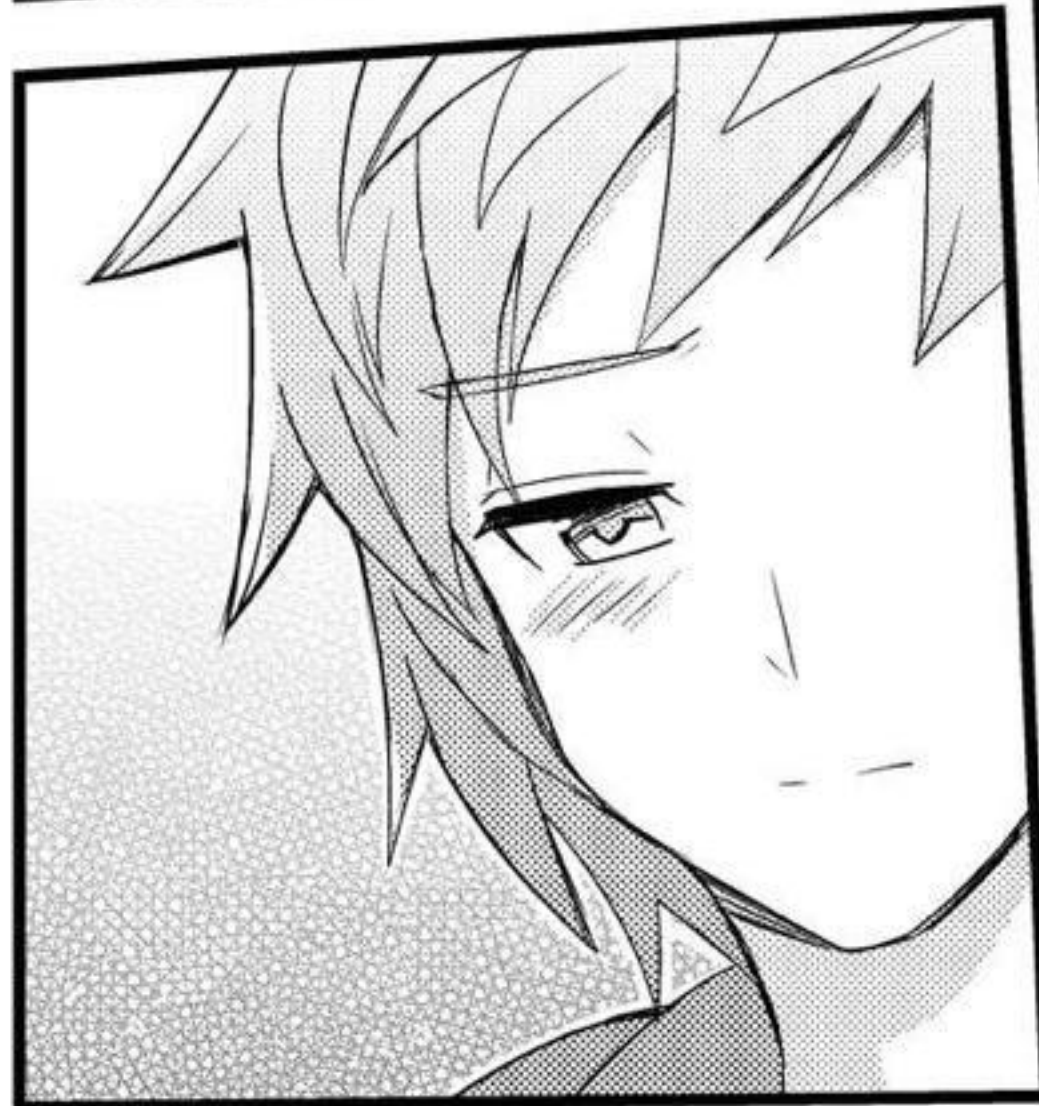
男同士  
だよ…?



主君は  
お優しいですし

俺なんかを労わって  
くださいますから





やはり  
変でしようか……？



はい

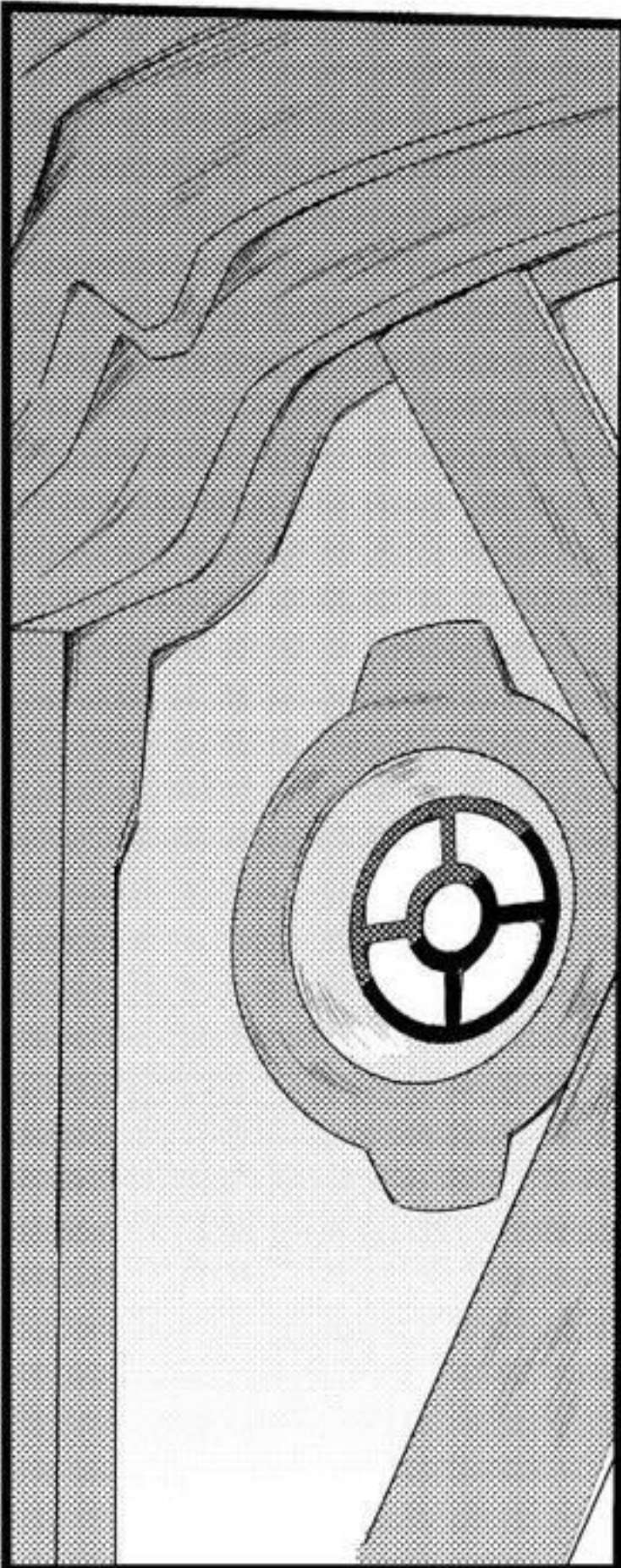


変じゃ  
ない



……うん





今夜は

僕に  
リードさせて



ジャミル…







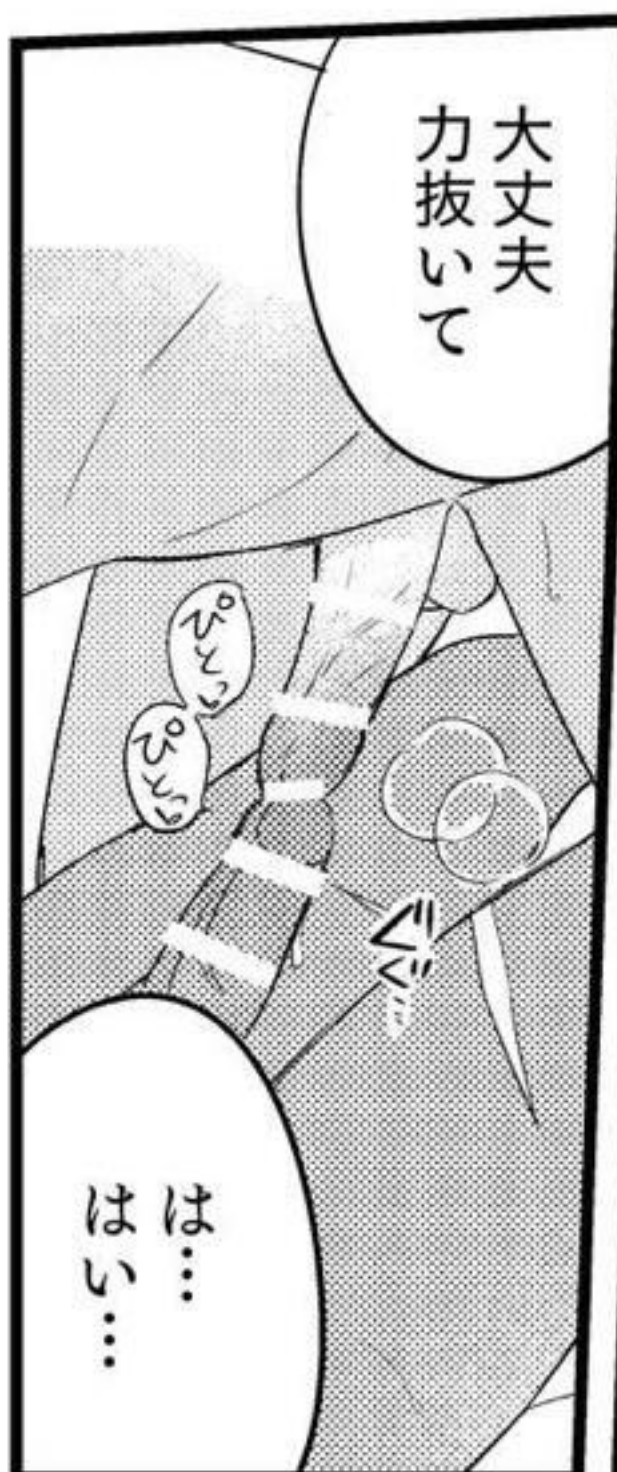


きゅんきゅん



ん

れろ



大丈夫  
力抜いて

はは...  
はは...



主君に  
していただけ  
なんて...

恐れ  
多くて...



緊張  
してる...?

ちゅっ

っ...  
はい...









ジャミルの  
こころ

いっぱい  
蜜出てる…

気持ちいい  
んだ…



ジャミルのが  
舐めたいんだ



そんな  
ことまで  
していただか  
なくても…



しゅ…  
主君…









ここ...  
もう柔らかいね

はあ

はあ

フキッ

フキッ



ジャミル



主君の摩羅で  
突かれていた  
ところを  
想像しながら...

やらしいな



はい...  
主君が  
事前に仰って  
くださった  
ので...

念入りに  
準備を...



僕のことを  
考えながら  
してたの...?

ん...  
はい...♡





でも…

やはり  
自分の指では  
物足りなくて…

主君が  
こうして毎夜  
俺を抱いて  
下さらなかったら

きつと  
欲求不満に  
なっていたと  
思います…

き…



君って  
そんなにすけべ  
だったっけ？

お嫌い…  
ですか？

ううん  
大好き



僕のじゃ  
気持ちよくなれて  
ないんじゃないかって  
不安だったけど

そうじゃ  
ないんだ

じゃ  
そろそろ…







どう…？  
ジャミル…

は

は

僕の…

っ…いいです…  
太くて…

すごく  
大きい…

俺の中…

ま  
ま

主君で  
いっぱいです…

キミん

ハズ

















気持ち  
いい…？

いっしょに…

グラン  
さまあ…



今…  
「主君」じゃなくて  
「グラン様」って…



ジャミル…！





あぁ…  
好きだ…

好きだ…

あぁ…  
好きだ…

あぁ…

あぁ…

全部…

僕のものに  
なれ…



グラン  
とま…

俺も…

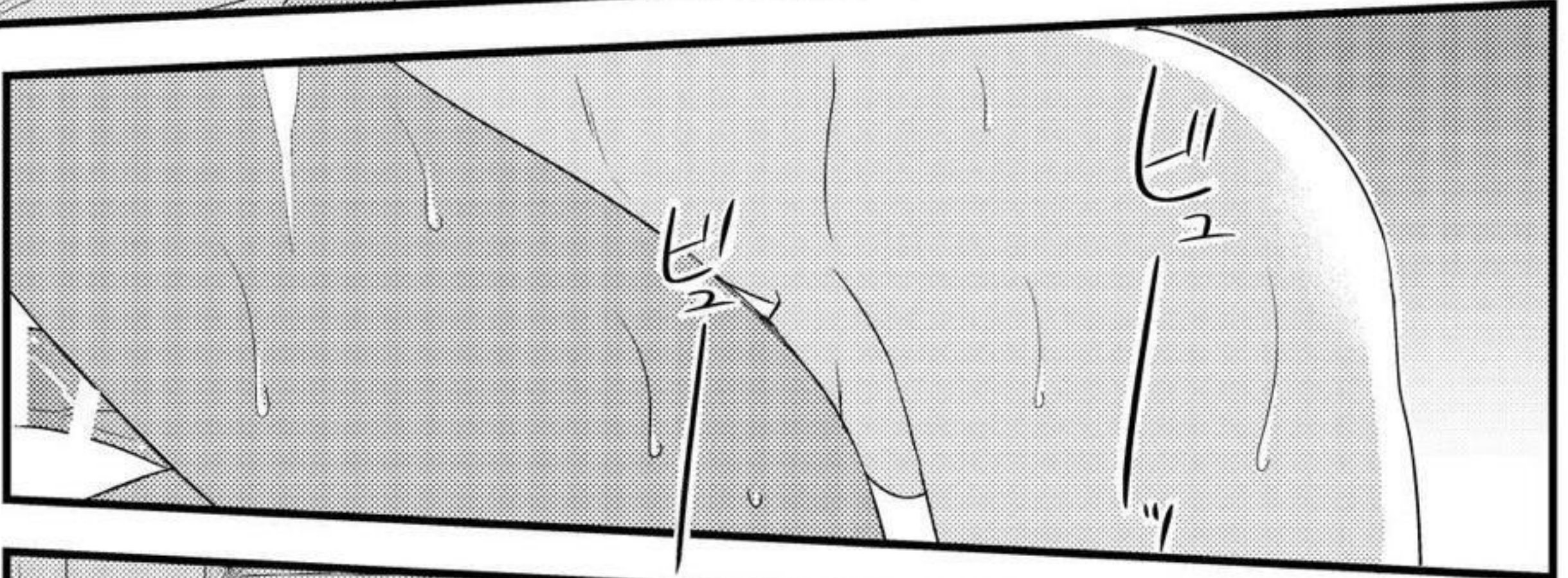
貴方と  
一緒に…



あぁ…

あぁ…









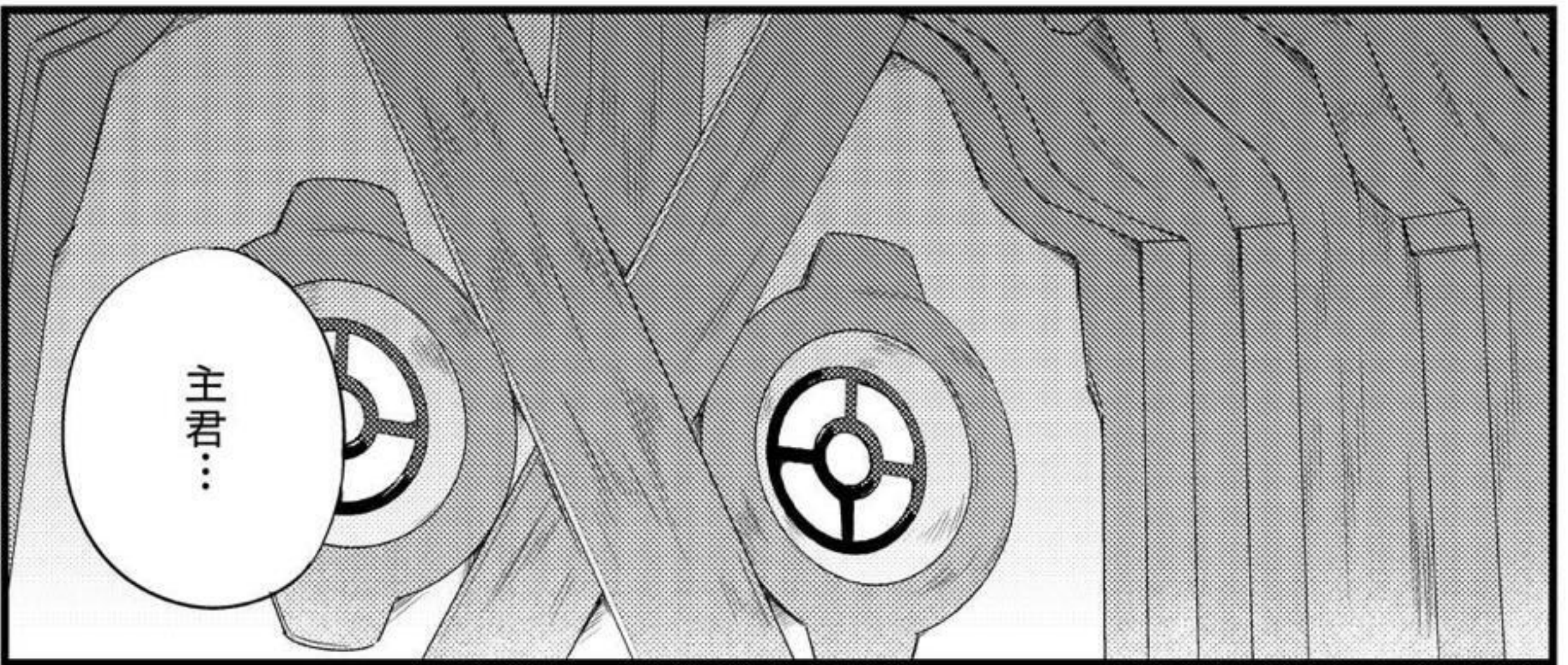
















主君の  
御心遣いが  
伝わってきて…



今宵の  
伽…

とても  
心地よかったです



僕も…



心の内だけで  
お呼びしている  
つもりだったのに…

いつの間にか  
漏れていたか…



ジャミルが  
「グラン様」って  
呼んでくれたの

すごく  
嬉しかったよ



しゅ…  
グラン、様…

お望みで  
あれば…

呼び方を変えますが  
いかがでしたし  
ますか…？

あ…

今まで通りで  
いいよ

いきなり  
変えたら  
みんなに  
怪しまれるかも

承知  
しました

では  
皆様の前では  
「主君」

こうして  
二人でいる  
ときは…

「グラン様」  
ですね…

ヒキッ





ねえ  
僕たち

もう  
恋人同士  
かな



うん  
それがいい

では  
そのように  
いたしますね



俺なんかには  
分不相応ではないかと  
思ってしまった...



ただ  
その...



やっぱり  
嫌...?

いっいえ  
そうでは  
ありません!





「俺なんか  
じゃない」

僕は

ジャミルが  
一番好きだ



俺なんかと  
このような行為を  
しているとは  
知られるのは  
不都合  
なのでは…?



ああ…



あ…



だから  
安心して

きっと君を  
幸せにする





それにさ

分不相応は  
僕の方だよ




すみません  
お見苦しい姿を...

気に  
しないで

むしろ  
嬉しいよ






エルステ王家に仕える  
由緒正しい一族の  
末裔が


僕みたいな田舎者と  
一緒にいて  
くれるなんて

普通じゃ  
ありえない  
ことなんだから



僕を主君と  
呼んでくれて  
ありがとう  
ジャミル

これからも  
一緒にいて  
ほしいな



はっ…







譚後ひょち

主君！

先ほど  
艇への侵入を試みた  
賊を見つけましたので

始末  
いたしました

ありがとう

屠ってない…  
よね？

主君の御言付け故  
命までは  
奪いません

しかし…  
常に用意は  
できておりますので

御入用の際は  
気兼ねなく  
御申しつけを…







その夜







君の  
可愛いところ  
知ってるの

僕だけ  
なんだよなって



何か  
嬉しいこと  
でも…?



グラン様は  
特別ですから…



このような姿を  
お見せできるのは

グラン様  
ただお一人です



ねえ  
もし僕たちが  
してる最中に

そのような  
不屈な輩は  
喉笛を潰した上で

性的に  
不具にするのが  
よいかと

賊が侵入  
してきたら  
どうする？

わあ  
物騒！

手加減  
なしだね

俺とグラン様の  
一時を  
邪魔する者に  
情けは要りません

むしろ俺としては  
屠ってしまいたい  
ところです

それでこそ  
僕のジャミルだ

じゃあ  
上に乗って

わん！

おしまい



# あしがき.

こんにちは、初めての方は初めまして、もときという者です。  
この度はお手にとりいただきありがとうございます。

『主君よ！俺にお任せください!!』の続編ということで、あのアクシデント的なエロから始まったら二人の関係はどうなるか…みたいな感じを描いてみました。  
その結果、二人とも15歳でやりたい盛りで毎晩の様にやっているけれど、最初は気持ちいいだけだったのが、だんだん相手のことを好きになっちゃって悩むグランくん…というお話になりました。

本編のグランくんはちゃっかりしている部分があり、なんだかんだで最初は深く考えずにやりたいと思ったらやっちゃうタイプなんじゃないかという解釈なのですが（その結果お人よしであり人たらしであり八方美人であるようになっているのではないかと思うのですが）、そんなグランくんがこの人だけは…と強く求めるような人を見出したらそれなりに深く悩んでくれるんじゃないかと思っています。グランくんの心情についての本編での描写はまだ少ないですが、「ノーレイン・ノーレインボー」で父親に置いて行かれたことへの苦悩（これは父親への執着ともとれ、ここが彼の旅の出発点になっていることの再確認であったと考えています）が描かれましたし、今後の展開でもっと触れられていってほしいな…という気持ちです。

さて、前編の『主君よ！』発行後のシナリオイベントで、ついにジャミルくんが出演を果たしてくれました…！  
実にめでたかった…「ノーレイン・ノーレインボー」、ジャミルくんの描写に関しては文句の付け所がありませんでしたし、たくさんのキャラが自分で考えて動いて悩んで生き生きして、とても素晴らしいイベントだったと思います。

あのイベントでのジャミルくんは主君の側にいながらとにかく影に徹するタイプで、主君が父親のことで悩んでいることをいち早く察知しておきながら、これを解決するのに適役なのは自分ではないと判断してファスティバさんに助けを求める、そのくせ主君の心を癒すためのハーブ採取には積極的に関わっていくという、誰よりも主君を想っているのに俺が俺がと前に出ていくのではなくあくまで裏方に徹するという姿勢がなんかもうジャミルくんすぎてとてもとても…最高でした…。イベントページのファスティバさんのセリフで「ジャミルくんの強い愛、アタシも見習わなくっちゃ！」というのがあるのですが、ジャミルくんの主君への想いをファスティバさんが「愛」だと表現してくれたことはすごく意味のあることだったんじゃないかと思います（というか、愛を体現していると言っても過言ではないファスティバさんに見習わなくっちゃと言わしめるジャミルくんの愛って相当のものなのでは…）。

そんなに主君を想っているのに自分が一番になろうとはしないジャミルくんだからこそ、グランくん「君が一番だよ」と言われて全幅の愛情を向けられて欲しい、そうなったらジャミルくんはいったいどうなってしまうのだろう…というのが私のグラジャミ妄想の源泉であったりもします。自分にはもったいない、畏れ多いと委縮して拒絶してしまうか、主従の掟だからそういった仲にはなれないと感情をこめず事務的に断り自分の内心との乖離に葛藤するのか、主従の関係を越えて人としてグランくんのことを愛しているから分不相応とは思いつつも受け入れるのか、いろいろなパターンを考えてはネームを描き変え非常に時間がかかってしまいました。最終的に3番目のような感じで落ち着き本作が完成したわけですが、私自身はジャミルくんがグランくん「好き」と言うことはないんだろうなと思っておりまして、そのため本作中で3度もグランくんが「好き」と伝えるのですがそれに対しての返事はしていないという形になっています。この根拠としては『PASH!』2018年4月号に



掲載されたインタビューでジャミルくんが主君のことは「好き」とは違うと言っていたという点が該当します。それでも、ジャミルくんが主君のことを想っているのは確かで、「好き」という言葉で表現できる感情ではない、ということであると考えています（これも、主君のことを内心では好きではないという可能性もあるよな…と以前は思っていたのですが、「ノーレイン・ノーレインボー」で「あの方」と呼んだ時の慈しむような表情を見てからはその可能性はないと考えるようになりました）。

そもそもジャミルくんが本来仕えるべきなのはエルステ王家であるというのは本編でも言われており、グランくんは仮初の主君というような立場にあると思うのですが、この仮初の主君という立場が彼にとってどのような意味を持つのがまだ分からないのです。あのファスティバさんをして見習わなくちゃと言わしめるほどの愛情が「主君」という立場に対してのみ向けられていたのならば、グランくんが「主君」でなくなった時点でそれは失われてしまうと思うのですが、逆に言えばそのような展開になればジャミルくんにとって「主君」という立場は大きな意味をもつものであるということになります。主君ができる前と後でジャミルくんの人生が変わったことについては彼の種々の発言から読み取れ、彼にとって「主君」という立場が大きなものであることは類推できますし、好悪の感情で計れるものではないということも伺えます。

ただ、問題はそもそもなぜグランくんを「主君」に選んだか（最初はルリアも含めてとされますが、後に「主君とルリア様」という言い回しをしていることから主君はグランくん1人としている、と解釈しています）、本来仕えるべき主君がいることを認識しているのにただちにそちらへはせ参じないのはなぜか、というところにあります。つまり、「主君」フィルターを通してはいるけれどジャミルくんの愛情は実はグランくん本人に対して向けられているのではないか…、という可能性が考えられるのです。少なくとも、グランくんはジャミルくんの主君になるべくして生きてきたわけではなく、グランくんを「主君」たらしめているのは他ならぬジャミルくん自身だということは重要なことだと思います。グランくんが「主君」ではなくなったとき、ジャミルくんがグランくんに対してどう振舞うのかですべてが分かると思います。王女がウルジュワン家関連で動き出すような展開が来たりすればこの辺りのことが掘り下げられると思うので来てくれないかなとず～っと思っているのですが…来るかなあ…来てほしいなあ…

長々と書いてしまいました。アクシデントエロに始まるぐくとじゃみの関係はひとまずここでおしまいです。お付き合いいただきありがとうございました。新型コロナでイベント参加も当分は難しそうなので、しばらくは二次創作につきましてはオフでの活動はお休みにし、Twitterやpixivに絵や漫画を上げるのみにしようかなと思っています。

土有利古戦場の後は闇有利と、ジャミルくんの活躍が続くことが内定していて嬉しい限りです。この調子でSSR化や季節限定やクロスフェイトやハイパークソデカ感情イベントが来てくれるとなお嬉しいですね！それでは、ジャミルくんの今後ますますの活躍を信じて…！

2020年8月某日 マジェスタス4凸3本が終わりそうもなくてむせび泣いているもとき





お読みいただき  
ありがとうございます!  
(元栗付ページ)





GRANBLUE FANTASY UNOFFICIAL FANBOOK  
GRAN × JAMIL

